

平成 20 年 1 月 19 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

平成 20 年 第 1 回講話

明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。

論語の素読を最初にすると、身も心も引き締まって非常に良い事だと思います。その中から自分の好きなもの、波長の合うものを、口癖のようにされると良いと思います。福田さんに素読をして戴いた中で、私は「利によりて行なえば、怨み多し」を、もう四十数年間使っています。十年くらい言い続けていると、身体に染み込んできます。

昨年は偽装問題が至る所で発覚しました。皆、目先の欲につられて出てきた問題です。「利によりて行なえば、怨み多し」という言葉が頭にあれば、あのような無様な事にはならなかったらうと感じます。

では、恒例でございますのでお聞きします。

「今朝起きてから今迄、嘘をつかなかった方はおられますか？」

「年末年始、悪い嘘をつかなかったと胸を張って言える方はおられますか？」

東京フォーラムで質問が出たのですが、当然、嘘には相手の為になるような良い嘘もあります。ですから私がお聞きするのは、悪い嘘・相手の為によくない嘘です。自分だけ好い思いをしようと思ってつく嘘は、悪い嘘です。

嘘をついたかつかないかの判断基準がだんだん深く入っていきますが、相手の為になる嘘は大いに結構です。生きていく上で何か大事な決断しなければならない時に、＜私は悪い嘘をついていないか？＞とお考え戴けばよろしい。

今年に入って製紙業界の偽装問題が出ました。古紙がなかなか手に入らないので、古紙を混ぜない紙を使って年賀状を作ったわけです。一見すると良質なものを売っているから良いのではないかとと思いますが、パルプを沢山使う分、森林伐採が進むのですから、基本的なところは良くないわけです。

この問題は抜本塞源論だと思いついた所で腑に落ちました。物事を何故・何故と追求して行って源まで辿り着く。そして一番基本的な動機・原因が分かって、基本的な原因と現在の対応を比べてみれば腑に落ちます。つまり、製紙業界が偽装問題で叩かれた元々は、森林を守る運動だったので、偽装問題を業界ぐるみでやった事に対するパッシングが始まったのだと分かります。

本日の「心に残る言葉」は、安岡正篤先生の『干支の活学』をご紹介します。

本来の干支は占いではなく、易の俗語でもない。それは、生命あるいはエネルギーの発生・成長・収蔵の循環過程を分類・約説した経験哲学ともいうべきものである。

『干支の活学』安岡正篤著 プレジデント社

季刊誌「知足」第四号に、今年の干支について書きましたのでお読み下さい。

では、本日のテーマでもあります「今年の干支について」申します。

今年安岡干支学で言いますと戊子（つちのえ ね）です。

「戊」は纏れる。「子」は鼠ですから、どんどん広がるという意味です。昨年色々な問題が出ましたが、今年更に問題が悪化します。纏れた糸が更に纏れて、どうにも手がつけられなくなる年が「戊」、そしてそれは鼠算的に広がる。そのように解釈致します。

当然昨年起きた偽装問題は、当たり前のように広がるはずで、世の中がお金・お金で動いていますから、今迄隠されていたものがどんどん表面化します。内部告発で広がるはずで、拝金主義がそれだけ広がるという事は、自分自身の判断基準を持っていないと、乗り切れない年になると思います。

では乗り切る為には何をしたらよいか。

口癖のように「利によりて行なえば、怨み多し」を言って戴いて、更に深く考える。利とは目先の欲望と捉えて下さい。

又、今年纏れに纏れる年ですから、是非アドバイザーを再確認されると良いと思います。耳の痛いことをしてくれる友達を持っていないと、怖いですね。自分で「利によりて行なえば、怨み多し」だけを一所懸命考えていても、つい魔がさします。ただ、人さまの言う事を聞く時、素直に聞く気持ちがないと困りますから、そういう気持ちを持った上でアドバイスを聞かれるとよいでしょう。

仕事上での問題・経営上の問題に対しても、適切なアドバイザーがおられるとよろしいし、例えば「もし自分に痴呆症の症状が出たら教えてね・・・」と頼めるような友人・知人、家族が必要だと思います。又、身体の不調に対しては、お医者さんとの付き合いも必要ですし、法律的な相談をする人も必要です。

身の回りに、自分のごく当たり前で何も疑問に思っていない事を、ストレートに指摘してくれる人を作っておくとよろしい。これは自分の努力でしか出来ません。

今年の干支を解説しましたが、そういうものを現実に活かす時に、知識・見識・胆識をお使いになると良いでしょう。

今年はどういう年になるか、どういう年にしたいかを考える時に、まず知識をみなければいけません。国外でどういふ動きが起きているか、そして自分自身はどういふ動きをしているか、これを時々自問自答されると良いでしょう。

皆さんは、国外ではどんな動きが気になりますか？（質問）

・・・サブプライムローン・新型インフルエンザ・ブリックスの動き・地球温暖化・オイルマネー・テロの問題・・・等々（答え）

色々お答え戴きました。国外でどういふ動きが起きているか情報収集する事は、知識を入れたことになります。収集した知識を自分なりに噛み砕いて、「こういう問題だ」と捉えるところまでは、知識です。

次に、日本の国はどのように対処すべきであるか、自分はどう対応すべきであるか、行動の決断をするには、見識が必要です。問題をどう捉えて、どう動くべきかの指針を出せるところまでいくと、知識は見識に高まります。

では、今年氣をつけなくてはならない国外の動きを具体的に考えましょう。

サブプライムローンについてお話しします。

30年もののサブプライムローンで見ると、最初の2年間は低金利で、3年目からは高金利に跳ね上がります。高金利に跳ね上り、払えなくなって万歳した人が続出した。これがサブプライムローンの基本的なところですよ。

しかもそれが自分の国だけで売ったものではありません。仕組み債として眼くらましをか

けて、世界の国に売ったわけです。世界で 50 兆円の損失が発生するという見込みになっています。日本で言えば、バブルが弾けた時と同じです。バブルが弾けた時に、金融機関はバタバタ倒産し、或いは合併をしました。こういうものが今、起きています。

アメリカの場合は、早めに資本注入していますが、他の国々がアメリカの銀行に対して資本注入をしている所に注目すべきです。中東のオイルマネーも入り込んで、アメリカの銀行を動かそうとしています。

アメリカの力が落ちてきたので、ドルの基軸通貨圏からアメリカを叩いて落とす事によって、自分たちが儲かると思った人達が動いているのではないかと感じます。ブリックスの特に中国とロシアが裏側で動いていると感じます。又、ドルを基軸通貨から落として、ユーロが取って代わる、或いはアフリカも通貨基軸として名のりをあげたいわけです。アジアもアジアの通貨基軸圏として集って、名のりをあげたいという動きをしています。世界の中で覇権を争っている構図が見えます。日本はそれには乗り遅れて、今、孤立化している状況です。

サブプライムローンは昨年、4分の1しか表面化していません。今年は残りの4分の3が出てきますので、大銀行がおかしくなって当たり前です。その余波が当然日本にも飛び火してきます。サブプライムローンは対岸の火事ではなくて、日本の問題になります。ですから今年は、サブプライムローンの影響を受けて、日本の銀行でも破綻する所が出て来ると思います。

日本を考えると、お金の面でも、或いは食べ物の面でも、世界の中からだんだん孤立化してきたように感じます。

テロに関してみても、日本は元々、テロの輸出国だと諸外国から見られています。神風特攻隊の考え方が、輸出されたのです。元々テロは、一対一の殺傷が普通だと考えられていました。それが地下鉄サリン事件は不特定多数の人達を殺傷したわけですから、テロの歴史を日本が塗り替えたと見られています。ですから日本のものの考え方は、世界から見ればかなり違うと思われているのです。

鳥インフルエンザの新型について申します。

先日NHKで特集番組をやっていました。新型インフルエンザの対応で、アメリカはドライブスルーで予防ワクチンを注射する訓練をしていました。

新型インフルエンザが発生すると、厚生省の予測では 3200 万人が感染し、そして 21 万人から 64 万人が死亡すると発表されています。しかし致死率は 60%と言っているのに、数字がありませんね。ちなみにオーストラリアのロウイー研究所の発表では、全世界で 1 億 2000 万人が死亡し、日本人は 210 万人が死ぬという発表をしています。致死率 60%というのは、今現在、鳥から人にうつったインフルエンザにかかった人が 6 割以上死んでいるので、この数字を言っているわけです。今、世界はフェーズ 3 の段階です。鳥どおしで感染している段階から、鳥から人へどんどんうつる。そして人から人へうつり始めると、新型インフルエンザと認定されるそうです。これが中国やインドネシアで少し出て来た状況です。

ちなみに予防策として国立感染症研究所から色々発表されていますので、HP を見て下さい。いずれにしても発生が確認されたら、交通は止まりスーパーも閉鎖されますから、沈静化するまでの 2 ヶ月間くらいは外に出ないでも済むような、食料の備蓄なり準備をしておかなければいけないようです。

人間が増えすぎているから、こういうものが起こってくるのだと思います。新型インフルエンザが蔓延し、それが片付いたら、その次に又、新しいものが出てくるという予測が出ています。

ブリックスについて申します。

ご存知のようにブリックスとは、ブラジル・ロシア・インド・中国の 4 カ国です。これから経済を牽引していくのはブリックスだと言われて、大分経ちました。

昨年私は経済が破綻した国を回りました。アルゼンチン・ペルー・ブラジル・トルコ・ロシアです。その中で日本が経済破綻をする時に、一番似ているといわれるのはトルコです。ロシアも似ていると感じます。

今年の秋頃、日本民俗経済学会から出版される本に、「ロシア・アルゼンチン・トルコの経済破綻検証」というテーマで書かせて戴きました。

ロシアもブラジルも経済が破綻しましたが、IMF の借金を完済しました。中国も今、ぐんぐん伸びていますが、凄まじい格差社会が広がっています。インドも伸びています。

ロシアは経済が破綻した事によって、自分の財産の守り方が分からなかった方々は 2000 万人位の人が飢え死にをしました。ルーブルをドルに変えて持っていた人達は、経済が破綻してロシアになった時には、日本円で 1 億円が 7000 億円に化けましたので大金持ちが出

現しました。

日本はこれから経済破綻をしたいと思います。そこで私達は、他の国々がどう生き延びたかという情報を知識として参考にする事が出来ます。

このように知識は、見聞きしたもの・体験した方の話を聞く・専門家の話を聞く・新聞を見る・・・といった情報を収集して、自分の身体の中で咀嚼しなければいけません。

その上ではっと閃き、<これは、こうしなければならない>と対処方法が出てくる。それが見識となります。

これはテロの問題にも関係しますが、今駅などあちこちに警察官・警備員がいます。テロ対策といいますが、本当にそれだけでしょうか。私が思うのは、経済破綻を起こした時に、日本の中で暴動が起き治安が乱れる、その時のためだと感じます。

知識を入れる時に、色々な国外の動きがありますが、国外のものをストレートに国内に反映させるだけではいけません。「おや?」「何処がおかしいのではないか?」という視点を持つべきです。それが見識を生みます。

そして見識が生まれたならば、次に出るのが胆識です。<こうすべきだ>という所まで自分なりの見識が持てるようになったら、身体をはって<こうしよう>とする実行力が伴ってくると、胆識と言います。

中斎塾フォーラムで学んでいく中で、今話をしているのは知識のレベルか、見識の段階か、もしくは胆識の結果を話しているのか、という見方で見て戴きたい。学ぼうと思わないと、入りません。そして自分のものにして戴きたいと思います。

本日は以上で終了致します。有難うございました。